

京の博物館

目次

巻頭言	1	トピックス	6
おこしやす		京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」	8
・社家・西村家庭園	2	美術館・博物館と私	11
・表千家北山会館	4	ティータイム	12

関西から

文化力

POWER OF CULTURE

京博連と共に

巻頭言

「生涯学習のまちづくり」を

京都市教育委員会教育長 高桑 三男



京博連の皆さん、お久しぶりです。

平成11年から生涯学習部長として3年間、樋口隆康会長をはじめ、京博連の皆様とともに、「ミュージアムロード」など様々な取組をさせていただいたことが懐かしく思い出されます。また、京博連設立10周年、15周年の記念祝賀会に参加させていただいた

折には、皆様と楽しく語り合う中で、文化芸術都市・京都の第一線で活躍される皆様の熱い心意気に感動を覚えました。

さて、門川大作前教育長の京都市長就任に伴い、本年3月1日に教育長を拝命してからはや半年が経ちました。拝命以来、学校教育と生涯学習を両輪とした「地域ぐるみ・社会総がかりの教育」の推進に力を注いでいるところでありますが、とりわけ、生涯学習の分野においては、本年2月19日に中央教育審議会から「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」答申が出され、知の循環型社会の構築を目指す取組が進められる中、京都の人々の知恵と経験を生かす生涯学習のまちづくりに取り組んで参りたいと考えております。

現在、京都市では、国内外から年間5,000万人近い観光客

の方々を毎年お越しいただいており、京都が人々を魅了し続けているのも、京博連に参画されている多彩な各施設の皆様が、単なる収蔵品の展示ではなく、訪れた人々の心に語りかける御取組をされているからこそと存じております。

また、本市では、門川市長を先頭に「かけがえのない京都の景観や文化を未来へ引き継ぐ京都創生の取組を市民と行政が協力して進め、文化・芸術・学術・観光・国際都市としての魅力を更に高める」様々な取組を推進しております。門川マニフェストには、市内全域の伝統文化や歴史、産業、自然科学など、様々な分野にわたる博物館・美術館を生かして、京都のまちを「まるごと博物館」にすることを掲げております。この「京のまち・まるごと博物館」構想を実現するために、博物館・美術館との連携を一層進め、その魅力を発揮できる「生涯学習のまちづくり」を加盟館の皆様と共に進めて参りたいと念願しております。

さらには、引き続き、「博物館連続公開講座」や「ミュージアムロード」の開催、「京都市内博物館ガイドブック」の発行や「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定」、「みやこ子ども土曜塾」の実施など体験型生涯学習の展開に努めて参りますので、変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、京博連加盟館の今後ますますの御発展を祈念致します。

上賀茂神社の社家

社家・西村家庭園

西村家庭園の経過については、京都市観光協会のご依頼で昭和50年代に「京の夏の旅」に2回採用された事により、一般公開することになりました。

この庭園は、上賀茂神社の東南を流れる明神川に沿って風格のあるたたずまいがたつらなる歴史的遺産の社家町、その一つである約700坪の敷地をもつ西村家庭園は、現在の所有者である西村家十一代良之助氏がその価値を十分に意識するなかで、良之助氏の祖父に当たる清三郎氏により相続し、これまで大変な努力をしながら維持管理を行ってきました。

又、この庭園は、明神川の水を取り入れ、清いまま元へ戻すという水利用システムが採用されており、養和元年(1181)上賀茂神社の神主である藤木重保氏が作庭したものと伝えられています。



西村家正面

●歴史について

上賀茂神社は、下鴨神社の祭神玉依姫命の子である別雷命を祀る。京都屈指の古社という歴史に加え、大同二年(807)には、伊勢神宮に次ぐ地位が与えられた。

神社に仕える神官の家柄を社家というが、上賀茂神社の東側には社家の住居がつくられ、それが連続して集落を形成しているため、社家町と呼ばれている。この町並みが作られたのは室町時代で、江戸初期の頃は150軒の社家がありました。この地区は「上賀茂伝統的建造物群保存地区」に指定されています。

西村家別邸は、錦部家の旧宅であるが、現存する社家中では最も昔の面影をとどめた庭園が保存され、昭和六十年に京都市指定名勝に指定され、一般公開することになりました。

●みどころ

◎家屋

切妻造り、平屋建て、妻入りの形態を備えた建物。西村家八代目の清三郎氏により、平井竹次郎氏の手で明治の中期から後期にかけて建て替えた数奇屋造りで、銘木を



庭園から見た家屋

惜しげもなく使われています。玄関を入ると右手に茶室、左手に仏間があり、廊下を進んだ右手にある書院から、明神川の取水が流れる曲水の川並びに庭が一望出来る仕組みになっています。又、玄関を出て右にまわると池庭を見る事ができます。

◎茶室

にじり口がなく自然光を取り入れた三畳台目の茶室。床は赤松の一枚板が用いられ、床柱も赤松を使用している。又、天井も網代となっています。

◎書院

床の間の柱は四本柱目で、どの角度からでも美しい木目が見えます。天井は中木目。又、書院棚の側面には屋久杉が使われ、縁の下には石灰と赤土、白川砂を混ぜたものがめぐらされています。



書院から庭園を見る

◎社家町について

上賀茂神社本殿の西側を流れる御手洗川と東側を流れる「御物忌川」が、舞殿のそばで合流して「櫛の小川」となり、境内を北から南に流れる。川は神社境内を抜けると東の方角に流れを変え、明神川となって清やかな土堀の続く社家町をめぐる。

上賀茂神社の社務職は古くは賀茂氏人の中から選んでいたが、鎌倉時代以降は後鳥羽天皇の長子氏久親王の系統につながる家々が明治時代までこれを独占。それらに携わる人々が、社家町を形成して集住したものであります。明神川沿いに続く家並みは、風格ある石橋、土塀や門、切妻造りの棟の低い主家に特徴があり、明神川から引き込んだ水は池を流れて清いまま元の川へ流し返すという地域のルールがあります。これらは全て社家と社家町を象徴するかけがえのない貴重な歴史的遺産で、西村良之助氏の永年にまつわる努力により、現在でもなお美しい景観を保っているのも見どころの一つであります。

◎ 庭を見る

賀茂川に架かる御蔭橋の北東に鎮座する上賀茂神社の、東南側を流れる明神川に沿って社家屋敷の土塀が続く。西村家庭園はその家並みの中程にあります。

石橋を渡って門をくぐると通り道の右手は生垣が続き、梅軒門の向こうは茶室への露地になっています。メインの庭は書院の座敷から眺められ爽快な風と緑が目に見える。



曲水川

この庭園は、明神川から水を引き入れ再び川に戻すという水利様式をとっています。庭内では、曲水の宴を催したことから「曲水川」と呼び、曲水川のそばには、貴船石や自然石が多く配されています。又、川の手前には深さ一メートルあまりの円形のくぼみがあります。これは神官が禊ぎをする際の水垢離の場として用いられた「禊ぎの井戸」であります。川の向こうは、庭の中心となっている降臨石が見られ、頂が平らになっており、上賀茂神社の神体の御神山を形取った石組が残っており、神官達の昔の生活がしのばれ、非常に興味深いものがあります。



禊ぎの井戸



降臨石と灯籠

庭先には、四季の花木が彩りを添え、目を飽きさせる事がない。野村楓は春から紅いのが特徴のカエデで、五月から十一月まで燃える紅葉が見られます。手前には新緑のカエデもあり、同時に見られる紅色と緑色のコントラストが美しい。又、川沿いにドウダンツツジが花開き、六月には沙羅（夏椿）の花が咲きます。さらに玄関の傍らにある楠には、風によって運ばれ着生した、風蘭が咲きます。白い花と厚みのある葉、かすかな香りの三拍子で初夏にふさわしい趣だ。廊下をはさんだ南側の庭には、生活雑排水を土壌浄化する為の吸い込み井戸として使われていた「不浄の水門」が設置されています。廊下のガラスは、英国から輸入した手作りガラスで、郷愁にも似た風情を感じさせます。

以上、庭園の経過、歴史、特徴等を申し上げましたが、これからも観光客をはじめとして広く一般市民の皆様方にも愛される庭園を目指してまいりたく、庭園の主、西村良之助氏は力を尽くしてまいりました。これからも皆々一致協力してこの庭園を守ってまいりますので、是非、機会がございましたら、拝観していただければ、幸甚に存じます。

社家 西村家庭園
庭園管理人 玉田 哲也

所在地/〒603-8075

京都市北区上賀茂中大路町1番地

TEL (075) 781-0666

交通/市バス「上賀茂御蔭橋」下車 徒歩10分、
「上賀茂神社前」下車 徒歩5分

開館時間/9:30~16:30

開館日/毎年 3月15日から12月8日まで

料金/大人500円、小人250円

茶の湯文化の発信

表千家北山会館

京都洛北に位置する北山は近年、京都の新しい文化ゾーンとして注目されているところです。京都府立植物園や京都府立総合資料館、京都コンサートホールが点在しております。この北山に平成6年、表千家北山会館は開館いたしました。

以来、表千家茶道をまなぶ方々をはじめ、ひろく茶の湯に興味をもたれている一般市民の皆様が気軽に茶の湯文化にふれていただくことのできる文化会館として活動してまいりました。館の施設としては、地階には200名収容できる清友ホール、2階には展示室、立礼席、呈茶ロビー、3階には各種小会議室に資料ビデオ鑑賞のできる研修室を擁しております。



北山通りから見た外観

● 茶の湯文化にふれる市民講座

平成8年の秋より毎回、テーマを設け、各界の第一線で活躍されている有識者を講師陣に招いて「茶の湯文化にふれる市民講座」を開催しております。北山会館の活動の柱であり、同時開催する特別展と連動し企画するもので、多角的に茶の湯の諸相を照らします文化講座であります。

この講座を一般市民の皆様にも広く知っていただくよう、当初より、地元京都新聞社と共催の事業として、また、京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会とNHK京都放送局の後援をいただいております。この市民講座をモデルケースとして、私共の母体であります社団法人表千家同門会の全国の支部にお



清友ホールでの講演風景

いても、地元メディアとの共催で、市民講座を推し進めており、各地で好評をいただいております。

● 特別展・企画展

21世紀に伝える日本の伝統に思いをはせ、現代に生きる茶の湯文化の再発見という視点から、毎年秋に、新たな切り口で茶の湯の文化を紹介する特別展をおこなっております。一例として、昨年(平成19年)は、利休の孫、元伯宗旦の三百五十年遠忌を記念して「元伯宗旦展」を開催しました。家元に伝来する表千家四代江岑宗左に宛てた宗旦自筆の手紙の内より40通を厳選して展示し、わび宗旦の茶風や三千家分立のいきさつ、僧侶・公家・武家・町衆などとの交友と、宗旦の人となりとその時代を感じていただきました。



特別展「元伯宗旦展」の2階展示風景

本年は、春期の企画展として、東京の目白にあります美術館・永青文庫の細川コレクションから利休や

細川三斎にまつわる茶道具の名品を70点展示。続いて、江戸時代中期に代を継いだ八代家元、碎啄齋・千宗左の二百年遠忌を記念して、好み物を含む、ゆかりの道具展を開催いたしました。企画展は主に春期の開催となります。その他の期間は2階展示室をメイン会場にして、唯今のところ四季の道具の取り合わせをサブテーマに少し先取りをした季節感を感じとっていただける展示企画をいたしております。



特別展「元伯宗旦展」の3階展示風景

● 公開文化講座・不審菴文庫特別講座

茶の湯には日本文化の特質が様々な形で表現されています。その特質を幅広くとらえ直す機会として、各分野における学識経験者や美術工芸家の方々に講師に招いてひらくのが公開文化講座です。これまで開講したユニークなものとして、京都の伝統文化から京舞井上流、御所人形、香木と練香、真田紐、京筆。茶懐石の世界から柿傳、瓢亭、吉兆のご主人による実技講習など、様々な分野の技と歴史をとりあげてきました。

また家元に伝わります文書史料の研究施設である不審菴文庫が主催する学術研究講座があります。主として古文書をテキストに茶の湯の歴史と文化を通観するものです。

● 入館見学及び各種講演会 参加について

□特別展・企画展会期中は月曜日休館。

それ以外の常設展期間は日曜・祝日が休館。

開館時間は9時30分～16時（入館は16時30分まで）

□特別展・企画展以外の常設展の入館については、展示内容のご確認など、事前に会館の方へお問い合わせください。

□「茶の湯文化にふれる市民講座」「公開文化講座」は先着順で、参加を受付けております。いずれについても事前にホームページをご参照ください。

□今秋の特別展は、千家十職のなかで竹工芸の茶道具を制作されてきた黒田正玄家に焦点をあて、歴代の作品を中心に、竹を素材とした多種多様な伝統の技を紹介いたします。

「千家十職 黒田正玄家の竹工芸」

～茶の湯工芸の伝統と創造～

会期：10月18日(土)～11月30日(日)

月曜休館（但し、祝日は開館し、翌日休館）

入館料 1,000円（呈茶を含む）

（団体20名・大学生・高校生 800円）

□市民講座のテーマは「茶の湯の竹工芸」

10月25日より毎土曜日4週連続の開催。

参加費 2,000円(1回につき/特別展の見学と

呈茶を含む)

※電話で申し込みを受け付けております。



呈茶ロビー

所在地／〒603-8054

京都市北区上賀茂桜井町61番地

T E L 075-724-8000

F A X 075-724-8007

交通／

JR京都駅より

●地下鉄烏丸線 国際会館行「北山駅」下車4番出口を出て西へ徒歩5分

●タクシー約30分

阪急電車烏丸駅より

●地下鉄烏丸線 国際会館行 乗り換え「北山駅」下車 京阪電車三條駅より

●地下鉄東西線 太秦天神川行 乗り換え「烏丸御池駅」下車し、烏丸線 国際会館行 乗り換え「北山駅」下車

京阪電車出町柳駅より

●タクシー約15分

休館日／講座内容・参加費等についてはホームページをご参照ください。

ホームページ <http://www.kitayamakaikan.jp>

平成20年度「京博連総会」開催 新役員体制発足

去る6月20日(金)平成20年度「京博連総会」が、京都国立博物館にて細見吉郎副市長，高桑三男教育長等を来賓としてお迎えし，盛大に開催されました。

当日は，門川大作京都市長からの祝辞をご披露いただきましたあと，樋口隆康会長による開会挨拶，京博連表彰（功労賞・奨励賞）式典及び市長感謝状贈呈式が行われました。

総会では，「19年度事業報告」に続き，「20年度事業計画案」，「役員改選案」が提出され，いずれも満場一致で承認されました。

また，議事終了後は，京都国立博物館学芸部企画室長の赤尾栄慶様から「紙の文化財をめぐる」というテーマで貴重なご講演をいただき，常設展の見学研修をいたしました。

京都国立博物館ならびに博物館ふれあいボランティア「虹の会」の皆さんのご協力のもと，16年目の飛躍に向け，期待高まる総会となりました。



栄えあるご受賞 お祝い申し上げます

◆ 功労賞 5名 (50音順)

二條陣屋	今村 妙 様
KCIギャラリー (京都服飾文化研究財団)	周防 珠実 様
泉屋博物館	外山 潔 様
京都市美術館	中谷 至宏 様
京都生活工芸館 無名舎	吉田孝次郎 様

◆ 奨励賞 19名 (50音順)

京都府立植物園	磯見 吉勝 様
京都市動物園	伊藤 淳 様
京都市動物園	岩橋 宣明 様
元離宮二条城	浦松 晃伸 様
京都市動物園	門 竜一郎 様
茶道資料館	鎌塚 宏子 様
元離宮二条城	小谷 英明 様
京都市美術館	後藤結美子 様
元離宮二条城	齋藤 正 様
京都府立植物園	櫻井 正治 様



京都市動物園	高木 直子 様
元離宮二条城	蔦原 栄一 様
元離宮二条城	中山 勝 様
元離宮二条城	塙 正人 様
藤井斉成会 有鄰館	藤井 善豪 様
京都市動物園	松永 雅之 様
元離宮二条城	松本 太造 様
京都市動物園	水野 章裕 様
京都市動物園	和田清太郎 様

※ なお，京都市動物園 伊藤 淳様におかれましては，6月7日に不慮の事故でお亡くなりになりました。生前の御功績をたたえ表彰するとともに，伊藤様のご冥福を心よりお祈り致します。

■ 新役員の紹介 (敬称略)

任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日



会 長	樋口 隆康 泉屋博古館館長	監 査	稲垣 繁博 京都商工会議所 産業振興部副部長
幹 事 長	細見 良行 細見美術館館長	監 査	本部 正一 (株)京都観光協会事務局長
副 幹 事 長	井上 満郎 京都市歴史資料館館長	庶 務 (事務局長)	宮田 英喜 京都市教育委員会 生涯学習部課長
副 幹 事 長	田中 恵厚 宝鏡寺門跡住職	相 談 役	石原 義正 京菓子資料館理事長
幹 事	赤尾 栄慶 京都国立博物館 学芸部企画室長	相 談 役	木村幸比古 霊山歴史館学芸課長
幹 事	大邊 徹 大河内山荘代表	相 談 役	栗山 一秀 月桂冠大倉記念館 元名誉館長
幹 事	河本 信治 京都国立近代美術館 学芸課長	相 談 役	榊原 吉郎 京都市立芸術大学 名誉教授
幹 事	谷 晃 野村美術館学芸部長	相 談 役	筒井 紘一 茶道資料館副館長
幹 事	橋本 眞次 白沙村荘 橋本関雪記念館副館長	顧 問	北川 和夫 想い出博物館館長
幹 事	安西佳津子 いけばな資料館 池坊中央研究所部長	顧 問	桜井 茂男 京都市特別社会教育指導員 (元島津創業記念資料館館長)
幹 事	楽 扶二子 楽美術館専務理事	顧 問	東條 壽 角屋もてなしの文化美術館 館長
幹 事	渡辺 眞 京都市立芸術大学 芸術資料館館長	顧 問	長澤 勇 京都市特別社会教育指導員 (元京都市教育委員会 生涯学習推進課専門主事)

松本明慶佛像彫刻美術館

松本明慶佛像彫刻美術館
学芸員 松本 華明

わが館を紹介

みほとけと対峙できる空間

松本明慶は慶派の流れを汲む平成の大佛師として、日本各地の寺院に数多くの佛像を納め、勢力的な活動を続けていますが、平成17年6月23日に当美術館を開館いたしました。館内には、常時120点を超える佛像彫刻を展示しております。

この美術館は佛像をこよなく愛する人々の鑑賞の場として、また佛像彫刻を志す人々の勉強の場として、そして何より希望を見失った人々が、一条の光を見出す再生の場を目指して、展示方法等、試行錯誤を重ねております。



松本明慶佛像彫刻美術館全景

わが館ひと自慢

平成の大佛師 松本明慶



美術館館内風景

昭和20年、終戦間際の混乱期に明慶は京都の職人町で生まれました。伝統工芸の産まれる風土を肌で吸収しながら成長しましたが、そんな17歳の春、4歳年下の弟を突然医療ミスで失います。これを契機として、彼は猛然と佛像彫刻の世界へ身を委ねることになりました。我流で2年間に300体の佛像を彫ったのです。以来、逆境・紆余曲折を経ながらも、師匠を筆頭として誠に多くの心篤き人々との出会いが、佛師明慶を支え育み46年が経過しました。63歳となった現在、西京区大原野の工房を拠点に、40人の弟子を育成しつつ、造佛と古佛の修復作業に明け暮れる日々を送っています。

また特筆すべきは、明慶が今日までに完成した大佛は、総高18.5メートルの世界最大級木造佛・大辨財天をはじめとして13体を数え、鎌倉時代以降これほど完成度の高い大佛造佛に心血を注いだ佛師も、稀有の存在と言えるでしょう。

わが館もの自慢

慈の世界

佛教伝来以来、連綿と継承され続けた佛像彫刻の制作には、繊細な感性と高度な木彫技術、そして強靱な精神力と体力を必要とします。明慶の作品は、先人たちが積み重ねて来られた経験や佛教思想・写実力を踏襲した上に、木彫の凄まじいまでの鍛錬を積んだ賜物なのです。なおかつ近代技術を導入した独自の工法を、新たに考案してまいりました。また品格を備えたみほとけの面影は、観る者の心の奥底に凜とした温もりを宿します。

館内には掌におさまる小佛や厨子佛・香合佛や、味わい深い一木づくりの素彫りの佛像、また緻密で高度な技術を要する截金細工や彩色を施した佛像、そして大佛制作時に駆使する賽割法の基礎となる雛型や、各地に納められた大佛の写真パネル等を展示しております。卓越した写実彫刻力と京都伝統工芸の技を礎とした、慈の世界を、より多くの方々にじっくりと堪能して頂けますことを、心よりに願っております。



大日如来坐像

- 所在地/〒602-8004 京都市上京区下長者町通室町西入西鷹司町 プレパレス内
TEL (075) 332-7974 (松本工房)
- 交通/市バス「烏丸丸太町」・地下鉄「丸太町駅」下車 徒歩10分
- 開館時間/10:00~16:30 開館日/原則として、第1・3土・日曜日のみ(変更あり)。上記電話番号にて確認の上、要予約
- 料金/無料

京都御苑

京都御苑管理事務所 所長 小沢 晴司

わが館を紹介

「寺町はどの城下町でもみられたが京都にしか存在しないのが京都御所と公家町である。」(村井康彦 文学と歴史旅行ガイド京都)。

この「公家町」が、明治の解体・苑地整備により今では200以上の巨木を含む樹林・庭苑地になったのが京都御苑です。第二次大戦まで御苑全域約92haは宮内省管轄で、戦後、「御所」など宮内庁管理20数haと、厚生省国立公園部(今の環境省自然環境局)管理約60数haに大きく分かれました。他に皇宮警察、3つの神社地がありました。「御苑」の厚生省移管にはGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の意向が強くはたらいたといえます。GHQにはアメリカ国立公園局からの出向者がいました。アメリカの国立公園制度はイエローストンなどの国立公園の他、国立首都公園、国家記念物などアメリカを象徴する場所も管理します。GHQは、皇居外苑や京都御苑などを、日本の象徴的な空間として国立公園体系で管理することが適当と考えたようです。今年、明治11年の京都府告示で「御苑」と命名されて以来130年になります。



閑院宮邸跡

わが館ひと自慢

管理業務に携わる スタッフ一同

苑内にある屋外トイレは12。苑路砂利の縁は夏など草の繁茂が著しく、苑内高木の大半は100年以上に成長し、なかには風雪時など倒木や枝の落下の恐れがあるものもでてきました。これら苑内施設の掃除や道端の除草、手入れ、生垣剪定ほか巡視や広報案内などのため、多くのスタッフが寒暑の別なく苑内の管理業務にたずさわっています。これからも、利用者の皆様の安全と快適な利用のため、より一層の努力を続けていきたいと考えております。



草引き作業風景

わが館もの自慢

苑内の公家屋敷跡

冒頭の紹介ほか御苑の歴史や自然について、「閑院宮(かんいんのみや)邸跡」展示室に、パネル等で解説しています。公家屋敷の雰囲気漂う館は月曜と年末年始を除く日が公開日(無料)です。向かいには九條家縁の御茶室拾翠亭があり金、土が参観日となっています。その他苑内には、源氏物語千年紀の由来となる出来事を紫式部が日記に記した土御門第跡、徳川十三代将軍正室となる篤姫が養女として入った近衛家跡、十四代将軍に嫁いだ皇女和宮の生家橋本家跡など歴史ドラマの跡と想像される場所があります。今は木立に包まれ建物の片鱗もありませんが、いくつかの場所には今春歴史解説板も立てたところです。皆様の御来苑をお待ち申し上げます。



土御門第跡

- 所在地/〒602-0881 京都市上京区京都御苑3 TEL (075)211-6348
- 交通/市バス「烏丸丸太町」・地下鉄「丸太町駅」下車 徒歩すぐ
- 開館時間/終日
- 料 金/無料
- ホームページ/<http://www.env.go.jp/garden/kyotogyoen>

泉涌寺宝物館 心照殿

わが館を紹介

泉涌寺宝物館 心照殿学芸主任 安藤信策

泉涌寺宝物館心照殿は、泉涌寺に伝えられた仏像、仏画、経典や皇室ゆかりの宝物を展示公開し保存するために平成16年(2004)4月から開館しています。泉涌寺は伝えでは、平安時代に藤原緒継が建立した法輪寺、後の仙遊寺に由来し、この地に開山俊苺律師が中国・宋の法式の伽藍を営むことを志して皇室の御帰依を得、嘉禄2年(1226)に主要伽藍の完成をみた寺です。建立の時、清泉が湧き出たので泉涌寺と改めました。仁治3年(1242)に四条天皇が当寺に葬られてから、歴代の天皇なかでも江戸時代の全ての天皇の御葬儀が行われ御陵が営まれて、皇室の香華院(菩提所)として信仰を集めてきました。



楊貴妃観音堂横の宝物館心照殿外観

展示室は2室あり、第1室では泉涌寺の歴史や仏教の展示を、2室では皇室に関わる企画展示を行っています。なかでも歴代天皇の尊影、宸翰や御遺品の屏風、硯箱、和楽器などの宝物は、歴史的にも美術的にも貴重なものです。

わが館ひと自慢

がちりんだい し しゅんじょう 月輪大師・俊苺律師

俊苺律師は仁安元年(1166)肥後国甘木荘(今の熊本県益城町)に誕生し4歳で池上寺(今の熊本市内)に預けられ、寿永3年(1185)19歳の時、大宰府観世音寺で具足戒を受けて正式な僧となりました。この年は壇ノ浦で平氏が滅びた年です。律の衰退を嘆き、律の復興のため入宋を決意し江南の地で12年間、律、禅、天台、浄土などの教学を修めて帰国した、鎌倉時代の高僧の一人です。



俊苺律師坐像(鎌倉時代・京都府指定文化財)

仏法興隆のため宋の寺院を手本とした伽藍の建立を志し、建保3年(1215)に「清衆規式」と「造東林十六観堂勸進疏」を起草、承久元年(1219)「泉涌寺勸縁疏」を起草して英賢諸衆の喜捨を求めました。「勸縁疏」は後鳥羽上皇の勸覧にも供され、准絹1万匹を奉加されました。皇室を始め多くの人々の寄進を得て、律師が亡くなった嘉禄3年(1227)の後も、弟子達はその志を受け継ぎ律師が構想した伽藍は整備されていきました。

わが館もの自慢

後陽成天皇尊影 (京都市指定文化財)

歴史の教科書にも登場する尊影で京都市の指定を受けています。細やかな斜格子文の中に一つ一つ小さな花が描かれた淡い藍色の直衣姿に烏帽子を付け、御茵(しとね)の上に坐す天皇の尊像。戦国時代末期の激動の時代に対処された風格ある天皇の御姿です。

父君は正親町(おおぎまち)天皇の第1皇子の陽光院誠仁(さねひと)親王で父君の逝去後、正親町天皇の譲位を受け天正14年(1586)即位されました。戦乱の世を統一した豊臣秀吉、徳川家康の援助で皇室の尊厳回復に努められた天皇です。父君・陽光院の菩提を弔うべく泉涌寺の舜甫明詔(しゅんぽみょうしょう)長老をたびたび御所に召して仏法を聴講され、戒を受けられました。天皇の舜甫長老への深い帰依が、戦乱で伽藍が荒廃した泉涌寺の復興の基礎となりました。画像の筆者は永徳の子で探幽の父である狩野孝信です。



後陽成天皇尊影(江戸時代・京都市指定文化財)

- 所在地/〒605-0977 京都市東山区泉涌寺山内町27 TEL (075) 561-1551
- 交通/市バス「泉涌寺道」、JR奈良線・京阪電鉄「東福寺」駅下車 徒歩15分
- 開館時間 /9:00~16:30 (12, 1, 2月は16:00まで) ●休館日/第4月曜日, 元日, 成人の日
- 料金/入山料 500円

泉屋博古館 (佐友コレクション) の青銅器

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
南村 寿子

「これって何?!」わくわくするような楽しくゆかいな形のモノたちが並ぶ。古代中国(殷・周)の青銅器だ。外で青銅器を見たことがあったが、量と質ではここ泉屋博古館が一番よいと思う。(その上建物もよい。)

高校の世界史の教科書で知ってはいたが、日常使うことのない=つまり祭礼の器として使用された青銅器が動物たちの形がたくさん付けられている。幼い子ども達は、「ワンワンだ」とか「ニャンニャンも!」とか「トリさんだ!」などと動物をみつけるたび喜びにちがいない。写真のものは、Wine vase, tiger holding a human being, Yu. とある。不思議なものである。



古代中国(殷・周)の青銅器

ボランティアとして



京都市内博物館ガイドブック

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
平 妙子

私が博物館ボランティア養成講座を受講したのは、車椅子を利用されている方の「もっと博物館や美術館へ行きたいが、行きにくかったり、展示の仕方で見にくかったりする」と言われていたのが、きっかけでした。何かお役にたてることがあればという思いだったのですが、受講するうち、館の多種多様に驚き、どこでもバリアフリーとはいかない事を思い知らされました。ただ彼の「ハード面はどうしようもなくとも、人と人のふれあいが大事なのでは」との言葉を胸に、ボランティアをさせていただいています。自分が学ぶことの方が多く、楽しんでいるのが現実なのですが…。

来館者としても京都の数多くある美術館、博物館を少しずつ楽しませてもらっています。そんな時、館のスタッフ、ボランティアのちょっとした気配りに気持ちよくなったりもします。これから京博連ガイドブックを片手に多くの館を訪ねたいと思いますが、どれだけ廻れるでしょうか。

思い出の作品との再会

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
木田 ミチル

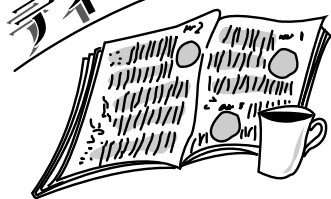
子供のころ、わたしの育った地方には美術館がありませんでした。展覧会に行くには、車で1時間以上もかけて遠くの町の文化会館まで行かなくてはなりません。それでも少ない機会だからと、何度か家族で出かけたものです。(両親に感謝)

そんな頃に観た展覧会のひとつが「福田平八郎展」でした。長い長い行列が続き、その先で出会った作品の数々…。高校生だった私は、初めて日本画を観たということもありますが、写実にとどまらず、一見単純とも思えるデザイン化された作品の表現の豊かさに感銘を受けました。特に「漣(さざなみ)」や「雨」はとても印象深く心に残りました。その経験は私の感性を大きく広げ、同時に伝統文化や建築など、興味関心も広がっていききっかけとなったのです。現在は、京都の恵まれた環境でさまざまな展覧会を楽しむことができ、つくづく幸せに思います。

そして昨年、京都国立近代美術館で再び「福田平八郎展」にめぐり逢いました。「漣」の青い線の連続から生まれるグラデーションの素晴らしさ、「雨」の、切り取られた瓦の画面、その上に落ちた雨粒…、30年以上たって再会できたこと…、ほんとうに胸いっぱいひとときでした。



福田平八郎展



京都人の唐さ

島津創業記念資料館 館長 左近茂樹

明治の初め、東京遷都により衰微した京都に新たな発展の息吹きを入れようとして催されたものの一つに「京都博覧会」があります。京都府と京都市民が志を一つにして協同して開催しました。わが国最初の博覧会とも言われています。

島津製作所の創業者である初代および二代目島津源蔵は、京都府から博覧会の品評人、審査委員を委嘱されています。私は、毎年開催されたこの博覧会に源蔵は何を出品していたのかに興味をもち、資料を調べている中で、明治6年制定の「京都博覧会規則」を見る機会を得ました。その中にこのような条文を見つけました。

第32条, 33条 (前条の例)

質問:物について問を發するなり。その疑いのあるところを委しく記して博識の教えを乞うべし。

(例)この飲料水は酸味があり、飲むとスカッとすが何というものか知っている人に鑑定して欲しい。

答問:問に応じてこれを弁説し、委しく方法を示すべし

(例)これは西洋では「アシットカルボナチプロン」といわれ、プロシャで産する炭酸水で、胃を丈夫にする。

正誤:問う者なしといえども、見て誤りと知る者は告げてこれを正すべし

(例)某氏は出品名を龍骨としているが、これは大魚の骨であり、龍のものではない。

教示:人の問わざるところといえども、その物について尚教うべきことあらば、直ちに記してこれを告ぐべし。

第34条

観客もこれは疑わしいものと思つたら、少しも遠慮せず、その旨を記して博覧会社に提出してほしい。

第35, 36条

会期が終了したら品評会を開き、会期中に得た



明治13年 博覧会品評人辞令

品評書はことごとく集め、遠近の学者相会して公評すべし。また質問、教示の内容も諸人に公評すべし。

第48条 (附博覧会の事)

博覧開場中、観客を楽しませる娯楽として、都おどり、能楽、茶席、書画会、季節に応じた植物・花の供覧、鴨川での花火、相撲、競馬などを行う。

この規則を読んでいると、「見せる側」と「見る側」を対極関係に置くのではなく、両者が関心事を共有したり、いろいろな人の知見等を活用して、博覧会を質の高い、意義あるモノに高めていこうとする熱い想いのほどが伝わってきます。また品評結果は公表するなど情報開示を明記し、さらに博覧会本来の目的である展示品の豊富さ、内容の良さを見せるだけでなく、観に来た客を楽しませるさまざまなアトラクションを考えて実施しています。この京都博覧会には、来場者を大切に考える考えや方策が山盛りです。

昭和3年までの半世紀にも及ぶ長い間、多くの人々に親しまれ、京都の年中行事の一つになったものなるほどと頷けます。この博覧会が世界に受け入れられる“メイド イン 京都”を育てたのでしょう。

それにしても、京都人の進取の精神と人をもてなす心意気には、思わず凄いなあと唸ってしまいました。ミュージアムづくりのヒントを得た気がしました。

発行 平成 20年 9月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局 (京都市教育委員会生涯学習部内)

所在地 〒604-8571 京都市中京区富小路六角下 元生祥小学校内 TEL075-251-0410 FAX075-213-4650

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_5.html

「京博連だより」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。